

第6回 オペラとミュージカル



ミュージカルといえば、アメリカニューヨークの「ブロードウェイ」やイギリスのロンドンを思い浮かべますが、昨今は、日本でもミュージカルブームになっているようです。日本で「ミュージカル」というジャンルが広く認識されるようになったきっかけは、1987年の『レ・ミゼラブル』（1985年ロンドン版）の翻訳上演だと

言われています。実は、当時私も同じプロダクションの公演を観ていますが、その時、エポニーヌ役を歌った島田歌穂さんのずば抜けた歌唱にショックを感じたのをよく覚えています。その後、「劇団四季」等の興隆で今日に至っているのは皆さんもよくご存知だと思います。

栃木県でも今アマチュアミュージカル劇団が増え、各地で公演が行われています。私たち「栃木県オペラ協会」のメンバーにも、最近はそのような団体からミュージカル公演への出演依頼が増えてきました。

先日、東京の「四季劇場」でミュージカル「アナと雪の女王」を観る機会がありました。その素晴らしい舞台と歌手の歌唱、演技に感動して帰ってまいりましたが、鑑賞中、自分がやっているオペラとの違いもいろいろ感じました。その一つは音響です。オペラでは基本的にPAで拡声させずに生の声で歌います。そのため、オペラ歌手はオーケストラを突き抜けて客席の1番後ろの人にも聞こえる声を出せるように日々発声を訓練し、言葉もよく聞き取れるように発音にもこだわります。（勿論ミュージカル歌手も基本的には同じような訓練はしているのですが、その方法はオペラ歌手とは少し違うようです。）一方ミュージカルはPAを使って歌うので、客席のどこに座っていても歌手の声がよく聞こえるし、何を言っているかもよく分かります。しかし、舞台に近い席でも遠い席でも同じように聞こえるので、まるでTVでDVDを鑑賞しているかのような感覚に陥りました。（あくまでも個人的な感想で良い悪いの問題ではありません。）

というわけで、今回は同じ音楽劇であるオペラとミュージカルは一体どう違うのかを考えてみたいと思います。

★オペラとミュージカルの歴史

「ミュージカル」は、「オペラ」から派生して生まれたジャンルです。なので、まずはオペラの歴史から紐解いていきましょう。次の図をご覧ください。

オペラの歴史

【宮廷オペラ】

○イタリアのフィレンツェで
富裕層の教養人達によって
オペラが生まれる

- ・題材は古代の神話や歴史上の英雄譚から（高貴な内容）
- ・レチタティーヴォ（音楽がついた台詞）とアリアの発明
- ・宮廷の威信や経済力を誇示する役割

『オペラ・セリア』

- ・全編を通して歌われることが規範
- ・厳格な規則と慣習に縛られる
- ・貴族の社交の場
- ・カストラートの隆盛

○貴族社会の衰退に伴い消滅

【商業オペラ】

1600年頃

17世紀前半

18世紀

19世紀

○ヴェネツィアに商業オペラの劇場がオープンし、イタリア各地に広まる

- ・後のミュージカル誕生の源泉
- ・観客は上流階級から下層の市民まで幅広い（題材は様々）

『オペラ・ブッフア』

- ・大衆に人気のアリアを重視し、レチタティーヴォは衰退し台詞に取って代わる
- ・主要な娯楽として親しまれる
- ・インプレサリオ（興行師）が公演を企画したため、時代の流行や地域の好みに合わせて作品が改変された（ある意味柔軟）

○パリがオペラの中心地となる

- ・オペラ座における上流階級向けのグランドオペラと格下劇場での台詞を含む軽めのイタリアオペラの共存

○オペレッタ（喜歌劇）の誕生
（ウィーン・ロンドン）

○ミュージカルの誕生へ

このように、オペラは格式や芸術性を重視した「宮廷オペラ」と娯楽中心の「商業オペラ」の二本立てで発展してきたことが分かります。王侯貴族をパトロンとして贅を尽くして行われた「宮廷オペラ」は、その厳格な規則と慣習に縛られるあまり、貴族社会の衰退とともに滅んでいきました。一方「商業オペラ」は興行の成功を第一の目的として行われ、時々の流行や大衆の人気に左右されながら、芸術性よりも娯楽性を重視して今日まで発展してきたと言えるでしょう。そして、その延長線上に今日のミュージカルがあるわけです。もし「商業オペラ」の発展がなければ、現代の我々はオペラもミュージカルも楽しむことができなかつたかもしれません。

それでは、次にミュージカルの歴史も見ていきましょう。

ミュージカルの歴史

【ミュージカルの発展】

- ヨーロッパ市民社会の広がりや都市化を背景に、娯楽的なオペラやオペレッタから「ショー」や「レビュー」などのサブジャンルが生まれる
- アメリカでは、白人が黒人をまねて顔を黒く塗って芸をする「 minstrel show」が流行する
- ブロード・ウェイなどでストーリーをもたないショーである「ミュージカル・コメディ」が誕生する

【関連事項】

19世紀

- ・印刷技術の発展によりショーやレビューのナンバーが楽譜化され、家庭用アップライトピアノの普及と相まって大衆に広まる

19世紀半ば

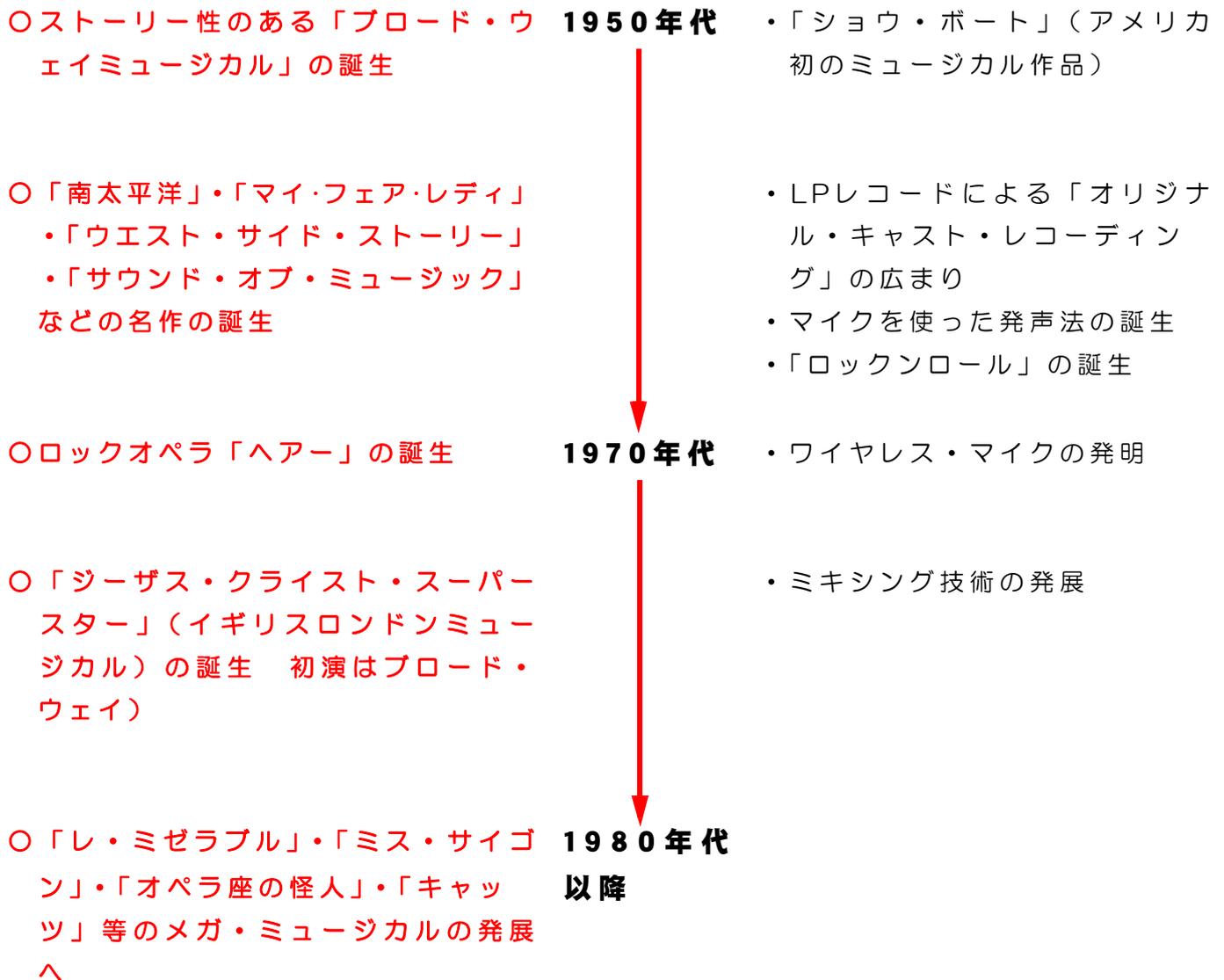
- ・「スティーブン・フォスター」らを草分けとする「ポピュラーソング」の誕生

1890年代

- ・「ミュージカル・コメディ」では当時の流行音楽が使用された

1920年代

- ・レコード産業の発展
- ・マイクロホンの発達
- ・「ハリウッド」でのトーキー映画の制作→ミュージカル映画の誕生



このようなミュージカルの歴史から、ミュージカルとポピュラー音楽との強いつながりが見えてきます。また、ミュージカルの発展にレコード産業や映画産業の発展が大きく関わってきたことも分かります。

オペラの変革の波はおよそ100年ごとであったのに対し、ミュージカルはほぼ10～20年単位で大きく変わってきています。ミュージカルが現代社会の急速な変化に対応し、いかに流行に敏感に順応してきたかがよく分かります。

★オペラとミュージカルの違い

オペラとミュージカル双方の歴史から、その違いがずいぶん見えてきたと思いますが、ここで整理してみたいと思います。違いは大きく次の三つにまとめられるのではないのでしょうか。

- 1 楽曲の違い
- 2 発声法の違い
- 3 内容・構成・演出の違い

1 楽曲の違いについて

オペラとミュージカルの歴史を見て、はっきりとその違いが分かるのは使われている音楽のジャンルの違いです。オペラで使われているのはいわゆる「クラシック音楽」で、モーツァルトやヴェルディ、プッチーニ、ワーグナーなど名立たる作曲家が名曲を残しています。伴奏も大編成のオーケストラが使われることが多いです。それに対してミュージカルでは、クラシック音楽は勿論、ジャズやロックなどのポピュラー音楽など実に様々なジャンルの音楽が使われています。そのため、伴奏もオーケストラだけではなく、ジャズバンドやロックバンドなどが使われることもあります。「オペラは高尚な芸術でミュージカルは大衆的な娯楽」というイメージは、この違いからきているのかもしれませんが。しかし、この二つに上下の区別はありません。どちらにもそれぞれの良さがあり、これまでいつの世も観客を楽しませてきました。17世紀から現代まで、廃れることなく対等に続いてきたことこそが、その立派な証拠です。

2 発声法の違いについて

オペラの最大の魅力は歌（アリア）にあります。その歌を喉に負担をかけずに効果的に表現するための発声法が『ベルカント唱法』です。簡単に説明すると、自分の体をスピーカーにして客席の一番後ろの観客まで声を届ける唱法と言ったらよいでしょうか。ですから、オペラ歌手の修業は、このベルカント唱法を極めることにつきるわけです。当然、マイクやPA機器は使いません。（屋外の公演などでは使う場合もあります。）

一方、ミュージカル歌手は歌だけではなく演技やダンスの旨さなども要求されます。しかもオペラと違ってロングラン公演が多く、1日2回公演などもざらにあります。正に体力勝負なのです。そのため、大きな声を出さなくても全ての観客に聞こえるようにマイクやPA機器を使っています。しかし、オペラとの違いはマイクを使うか使わないかだけではありません。発声法も大きく違っているのです。そしてそこには台詞の問題があるのです。

オペラは全編にわたって歌われることが原則なので、台詞にも音楽がついています。ですから、台詞と歌（アリア）の境目でも観客は違和感を感じることはそうありません。しかし、ミュージカルは普通の演劇のように台詞が語られるので（もちろん例外もあります。）、今まで喋っていた者が突然歌出すという状況が起こります。これは観客にとっては違和感のある現象です。その上、台詞が地声で歌が『ベルカント』だったらどうでしょう？違和感はますます大きくなると思います。そのため、ミュージカル歌手は『ベルカント』ではなくポピュラー音楽の発声を使います。（使われている楽曲や役柄に

よってはベルカントで歌うこともあります。) ポピュラー音楽の発声とは、いわゆる地声・ミックスヴォイス・ファルセット(裏声)を使うということです。『ミックスヴォイス』とは中低音から高音まで声質を変えない声(歌い方)のことです。つまり、簡単に言うと、ミュージカルの歌は「台詞を語るように歌う」ということになります。

3 内容・構成・演出の違い

物語の内容面から見ると、一般的にオペラには悲劇が多く、ミュージカルには明るい内容のものが多いたと言えます。(勿論例外はあります。)これは、娯楽を求めてミュージカルを見に来る観客が、明るい内容のものを好んだからでしょう。

また何度も言っている通り、オペラでは歌唱が最も重要視され、役柄や感情など全てを高度な歌唱技術で表現しなければなりません。そのためオペラでは専門の教育や訓練を受けた「オペラ歌手」が必要であり、ダンスなどは専門のダンサーが踊るのが普通です。一方ミュージカルでは、歌、台詞、芝居、ダンス全てを一体化して役柄や感情を表現するため、見た目や容姿も重視され、歌手ではなく俳優が演じることも多いです。ダンスも歌い手自らが踊ります。

★まとめ

今回は、オペラとミュージカルの違いについて見てきました。

それぞれの歴史や違いを知った上で鑑賞すると、さらに興味が増して楽しめるのではないのでしょうか。

私はオペラとミュージカルのどちらにも出演したことがあります。歌い手として関わる場合、発声のような技術的な問題はそう簡単なことではありません。永遠の課題と言ってもよいでしょう。しかし、途中でも述べたように、オペラ、ミュージカルどちらにも大きな魅力を感じています。

例えば、プッチーニのオペラでは、その音楽の美しさに酔いしれ、「オペラっていいなあ」と心から思います。また、ミュージカルに出演している時は、他の出演者たちとの台詞のやり取りに、オペラの時よりも演劇的な要素をより強く感じます。会話の流れによっては即興で喋ることもあり、そのスリルにわくわくしながら演じています。

今後も、オペラとミュージカルそれぞれの良さが生かされ、我々を楽しませてくれるような優れた作品が生み出されることを期待したいと思います。

【文責】 S.O

【参考文献】

- 宮本直美著「ミュージカルの歴史」－なぜ突然歌いだすのか－
中公新書
- 車田和寿 「音楽に寄せて」 ミュージカルって何？
<https://youtu.be/WICH6WKn1bg>
- ピアチェーレ音楽教室 オペラとミュージカルの違いは？
<https://www.piacere.jp/column11.html>

